

平成28年度 学校経営計画及び学校評価

1 教育目標

<p>教育理念 夢と高い志、挑戦、そして未来創造</p> <p>教育目標 一人ひとりの未来へと繋がる夢を実現する</p> <p>校訓 誠実剛毅</p> <p>育てたい人間像 ○自らの能力を最大限に伸ばし、進路実現にたゆまず努力する若者。 ○心を込めて、真心を持って人や物事に接することのできる、多様な個性を尊重し、相手の立場に立って行動できる若者、文武両面において意志が強く、くじけない若者。 ○剛健な体力を持ち、自治と責任を重んじ、謙虚と礼儀を尊ぶ若者。 ○知育・徳育・体育の調和のとれた人格を形成することにより、国際社会で活躍し、貢献できる若者</p>
--

2 中期的目標

<p>1 確かな学力の育成 (1) 授業の改善 (2) 自ら学び考え、判断し行動する力の育成 (3) グローバルリーダーの育成</p> <p>2 高い志の育成と進学実績の向上 (1) 6年間もしくは3年間見通した進路指導による高い志と明確な目標の育成 (2) 新しい入試制度の研究と対応</p> <p>3 学校生活の豊富化 (1) 学校行事や部活動、学校内外の体験活動を通じた、豊かな人間関係の構築と自主性・リーダーシップの育成 (2) 全教職員による生徒指導により、規範意識の育成やマナーの向上と、“初富生としての誇りをはっきりと表す”事のできる生徒の育成 (3) 安全で安心な学校づくり</p>

3 学校教育の自己診断と学校関係者評価委員会の意見

学校教育自己診断の結果と分析	学校関係者評価委員会からの意見
<p>・教育活動に関する保護者アンケートの回答 [H28.12.12～H28.12.19 実施] 中学生保護者アンケート【有効回答数 280 (1年 99・2年 90・3年 91 回収率 88.9%)】の回答によると、「あてはまる」と「ややあてはまる」という肯定的な回答が 80%を超える項目が 20 項目中 12 項目であった。中でも、「わが子を入学させてよかったと思う」92%、「教員は、生徒のことをよく考えて指導している」91%、「学校生活などの諸規定は、納得できるものになっている。」90%、「挨拶や時間厳守など、社会に通用する指導がなされている」94%、「学校行事(文化祭・修学旅行など)は楽しく充実している」94%、「教職員は、お互いに協力して学校運営に取り組んでいる」91%の6項目は90%を超える高評価であった。また、高校生保護者アンケート【有効回答数 816 (1年 297・2年 266・3年 253 回収率 86.9%)】の回答によると、「あてはまる」と「ややあてはまる」という肯定的な回答が 80%を超える項目が 20 項目中 12 項目であった。中でも、「わが子を入学させてよかったと思う」91%、「教職員は、生徒のことをよく考えて指導している」90%、「挨拶や時間厳守など、社会に通用する指導がなされている」95%、「保護者への連絡や、情報公開は適切に行われている」90%の4項目は90%を超える高評価であった。中・高共に、全体としては本校の教育の方針に一定の評価をいただいているものと思われる。</p> <p>・生徒授業評価アンケートの回答 [第1回(中学:H28.7.16/高校:H28.7.23) 第2回(中学:H28.12.19/高校:H28.12.17) 実施] 授業評価アンケートの各授業の共通設問「授業内容に満足している(主にレベルや理解度の観点で)」に対して、「あてはまる」と「ややあてはまる」という肯定的な回答を得た割合は第1回目と第2回目(高校3年は第1回のみ)の全ての教科の平均で、中学が84.2%、高校が80.8%となり、一定の評価がなされていることが分かる。学年別に見ると中学1年(89.9%)、中学2年(85.2%)、中学3年(78.4%)、高校1年(81.2%)、高校2年(81.0%)、高校3年(82.0%)となった。この評価に満足せず、全学年で高い評価が得られるよう更なる授業改善をする必要がある。</p> <p>・教員による自己評価アンケートの回答 [H28.12.12 実施] 回収率 100% 「生徒指導において、家庭との連携ができています」94%、「年間を通じた教育計画を各教科別に立てている」96%、「授業を改善し、分かる授業、力がつく授業の工夫をしている」92%、「生徒の実態に合った工夫された学習指導が行</p>	<p>①委員会の体制 初芝富田林中学校・高等学校評価委員会 地域の方(町会長)2名・学識経験者(元公立中学校校長)1名・中学2年保護者(学年委員長・副委員長)2名・高校2年保護者(学年委員長・副委員長)2名・校長・教頭・事務長</p> <p>②委員会の実施日 平成29年3月22日</p> <p>③自己評価の結果に対する評価 ○2020年度の大学入試改革への取り組みと、新しく始まる Will-Frontier コース、未来創造コースについて、各学年が定める到達目標の達成のため、授業内容をより充実してほしいという意見があった。 ○毎年1学期末に行っている三者懇談について、年1回だけでなく、他の時期にも実施してはどうかという意見があった。 ○周囲の本校に対する評判は、まだまだ厳しいイメージがあるが、実際に子どもを入学させてみると、とても楽しく、校則も適度にきっちりしており、自由のある学校だと感じたという意見があった。 ○文化祭に関して、土日実施を検討してはどうかという意見があった。 ○グローバル教育、タブレット PC の導入など、せっかく良い取り組みをたくさん行っているのだから、それによって生徒の学力が具体的にどのように推移しているのかという分析を行い、公表してはどうかという意見があった。 ○ボランティア活動について、インターアクトクラブがあることを子どもが知らず、知っていれば入りたかったので、もっと PR してほしいとの意見をいただいた。 ○地域の方より、初芝富田林が子どもたちのために、素晴らしい取り組みをしていることをあらためて感じたというご意見があった。</p>

<p>われている」90%、「さまざまな学校行事があり、活発である」89%、「電子黒板は、授業やHR・総合学習で有効に活用されている」95%、「部活動は活発である」83%、「教員間・教科間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」91%、など、教育に対する取り組みには自負をもっていることがうかがえる。一方、「施設・設備が整っている」30%、「ボランティア活動は活発である」30%と低く、改善が必要な項目ととらえていることがうかがえる。</p>	
---	--

4 本年度の取り組みと達成状況

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	次年度に向けての改善策
1 確かな学力の育成	(1) 生徒一人ひとりの進路実現のために、授業改善に努める。	(1) ア 年2回の生徒による授業評価アンケートの結果を有効に活用し、授業改善に努める。 イ 保護者アンケートの結果を有効に活用し、授業改善に努める。	(1) ア 生徒の授業評価アンケートの共通項目「授業内容に満足している(主にレベルや理解度の観点で)」に対する肯定的な評価が80%以上。 イ 保護者アンケートの「わが子は授業に満足している」「教職員は授業を改善し、わかる授業、力のつく授業の工夫をしている」に対する肯定的な評価が80%以上。	ア 第1回目と第2回目(高校3年は第1回のみ)のすべての教科の平均は中学で84.2%、高校で80.8%と全体としては、目標を上回る評価をいただいた。特に中学1年(89.9%)、中学2年(85.2%)は高い評価となったが、中学3年(78.4%)は目標をやや下回った。 イ 「わが子は授業に満足している」の評価は中学79%、高校74%となり、80%の目標には到達せず。「教職員は授業を改善し、わかる授業、力のつく授業の工夫をしている」については、中学83%、高校78%で、高校では目標を達成せず。中学では目標を達成し、教職員の授業改善に対する努力は高く評価された。電子黒板やタブレットを使った授業などICT活用やアクティブラーニングなどの導入が要因と思われる。	ア すべての学年で80%以上の評価が得られるよう、今後も授業改善に努める。 イ 今後も授業改善が生徒の満足度につながるよう努力する。
	(2) 議論する力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力の育成	(2) ア 議論する力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力の育成を目指す取り組みを実施する。	(2) ア 議論する力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力の育成を目指す取り組みを実施できたか。	ア 中1では、ディベート・ビブリオバトル・課題研究発表会。中2では、クエスト(企業からの課題に取りくむ探求プロジェクト)や英語スピーチコンテスト、中3は小論文、高1では英語でのプレゼンテーション実践授業、高2ではオックスフォード体験学習参加者の英語での成果報告プレゼンテーション。高3では小論文講座「現在の諸課題について」など各学年で様々な取り組みを実施した。また、校外でのプレゼンテーションの機会を活用し生徒を積極的に派遣、参加し、1年生がビブリオバトルに優秀な成績を収めるなど議論する力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力の育成に努める事ができた。	ア 大学入試制度改革を見据え、現在の取り組みを検証し、再構成すると共に、教育活動のあらゆる場面で、アクティブラーニングを積極的に導入する必要がある。
	(3) 「グローバルリーダー」の育成のため、英語力の強化ならびにグローバル人材として活躍できる人材育成に係わる取り組みを実施する。	(3) ア GTECや英検受験を推奨し、生徒の英語の「4技能」の伸張をはかる。	(3) ア 英検の校内実施を中・高共、年2回に拡大し実施する事を目標とする。	ア 従来中学校・高等学校で実施してきたGTECに加え、中学生および高校生希望者対象に英検を年2回校内実施することができた。受験者は、中学生では、6月は38.5%、1月68.1%、高校生では6月は	ア 英検については、実施時期や方法について今後も検討し、各級の合格者が増える

		<p>イ グローバル人材育成プログラムとしての英国短期留学「オックスフォード大学体験学習」(高1)をさらに充実させる。</p> <p>ウ 新たなグローバル人材育成プログラムの導入</p> <p>エ 留学希望者に対する諸規定の周知をはかる。</p>	<p>イ 英国短期留学「オックスフォード大学体験学習」(高1)については、選考による定員50名の参加と、参加者による校内での成果発表の実施を目標とする。</p> <p>ウ 学年横断的な新たなグローバル人材育成プログラムとしての企画・実施を目標</p> <p>エ 留学先で取得した単位を、留学単位として認定できるよう整備した、教務の規定を周知する。</p>	<p>24.1%、1月(高1・2)53.2%が受験した。</p> <p>イ 昨年の英国短期留学「オックスフォード大学体験学習」の希望者は、50名を上回り、選考により50名が参加した。本年度は成果発表を、文化祭にて展示に加え、英語での成果報告プレゼンテーションを行う事ができ目標は達成できた。</p> <p>ウ エンパワーメントプログラム(海外の大学生および留学生とコミュニケーションを通して、自らの将来に何が必要かを考え、気づき、行動していけるようになる事を目的とした探求型プログラム)を、中3～高2希望者36名の参加を得、実施することができた。</p> <p>エ 留学制度について、在校生に周知し、掲示板に留学などの情報提供コーナーを設置したが、本年度内に、個人での留学の希望者はなかった。</p>	<p>よう、事前学習のサポート体制も含め検討する必要がある。</p> <p>イ 希望者増加に伴い選考の方法や新たな企画の導入について、今後検討する必要がある。</p> <p>エ 運用面での問題を検証しつつ、留学希望の生徒への情報提供に努める。</p>
<p>2 高い志の育成と進学実績の向上</p>	<p>(1)保護者評価や生徒アンケートももとに、進路指導の改善に努め、進路意識を高める取り組みを企画推進するとともに、進路指導部を中心とした進路指導と情報提供に努め、生徒の主体的な進路実現をサポートする。</p>	<p>(1) ア 保護者アンケートの結果を有効に活用し、進路に関する情報を的確に伝え、きめ細やかな指導がなされるよう改善する。</p> <p>イ 保護者アンケートの結果を有効に活用し、将来を考える、進路意識を高める指導がなされるよう改善する。</p> <p>ウ 進路意識を高める取り組みを企画推進する。</p>	<p>(1) ア 保護者アンケートの「進路に関する情報を的確に伝え、きめ細やかな指導がされている。」に対する肯定的な評価が80%以上。</p> <p>イ 「将来を考える、進路意識を高める指導がされている。」に対する肯定的な評価が80%以上。</p> <p>ウ 進路意識を高める取り組みを改善できたか。</p>	<p>ア 特に進学講演会や進学説明会を通じて、また、進路通信で、生徒・保護者に情報提供を行いました。結果、「進路に関する情報を的確に伝え、きめ細やかな指導がされている。」の評価は高校で87%と高い評価を得て目標を達成しています。中学では79%と目標に1ポイント及ばなかった。</p> <p>イ 「将来を考える、進路意識を高める指導がされている。」の評価は、中学で81%、高校で86%と、中・高共に目標を達成しており、高評価を得た。</p> <p>ウ 本年度は、恒例の行事を継続することに加え、ヒポクラテスの集い(医学部の大学生やと現職の医師として活躍する本校の卒業生と、医師を目指す中・高在校生の座談会)などを実施し、進路指導の充実に努めることができた。</p>	<p>ア 今後もきめ細やかな情報発信を継続維持することでこの評価を向上させていきたい。</p> <p>イ 今後も進路意識を高めるための新たな取り組みを行い、この状態を維持できるよう努力する。</p> <p>ウ 今後も生徒の主体的な進路実現に繋がるよう、既存行事の改善、変更、新たな企画の導入に取り組みたい。</p>
	<p>(2)新しい入試制度への対応を研究する。</p>	<p>(2) ア 保護者アンケートの結果を有効に活用し、現在の教育課程が、進路希望の実現に対応するものとなるよう改善する。</p> <p>イ 新しい大学入試選抜に対応するための情報収集と研究を行う。</p>	<p>(2) ア 保護者アンケートの「教育課程は、進路希望の実現に対応するものになっている」に対する肯定的な評価が80%以上。</p> <p>イ 情報収集活動・職員研修を実施できたか。</p>	<p>ア 「教育課程は、進路希望の実現に対応するものになっている」の評価は中学で84%、高校で83%と中高共に目標を達成しており、高い評価を得ている。</p> <p>イ 大学や予備校へ出向いての情報収集や講師を招いての職員研修を実施した。</p>	<p>ア 今後も大学入試制度改革を見据え、新たな教育課程の作成に努力する。</p> <p>イ 今後も情報収集に努め情報収集と研究を継続する。</p>

<p style="text-align: center;">3 学校生活の豊富化</p>	<p>(1) 生徒や保護者のみなさんが安心・安全に、豊かな学校生活を送れるよう、また、教育効果を向上させるための施設や設備の改修に取り組む</p>	<p>(1) ア 保護者アンケートの結果を有効に活用し、施設・設備を整備する。</p> <p>イ 施設の大規模改修に取り組む</p> <p>ウ 施設・設備等、教育環境の整備に取り組む</p>	<p>(1) ア 保護者アンケートの「施設・設備が整っている」について、肯定的な評価が昨年の中 63%、高校 49%を上回ること。</p> <p>イ 平成 28 年度中に、校舎屋根・外壁等の改修完了を目指す。</p> <p>ウ 新たな施設・設備等、教育環境の整備に取り組むことができたか。</p>	<p>(1) ア 「施設・設備が整っている」の評価は中学では 64%、高校では 51%となり、微増ではあるが昨年を上回った。本年度は校舎の外壁や屋根の大規模な改修・別館や体育館のベランダの改修を行ったが、完成が 12 月であったため、今回のアンケートにおいては大きなポイントアップには繋がらなかった。</p> <p>イ 生徒の安全および学業への影響を勘案し、調整を行い、平成 28 年 12 月に校舎屋根・外壁等の改修が完了した。</p> <p>ウ 本年度で選択教室・特別教室を含む、全教室に電子黒板を導入した。教科や総合学習、HR で活用されている。次年度の生徒用タブレット端末導入に向け、各教室の LAN 環境をさらに強化、ICT 環境の整備に努めた。</p>	<p>ア 今後も安全点検に心がけ、安心して学校生活を送れるよう、また、教育効果の向上を目指し、優先順位を決めて施設・設備の充実を図る必要がある。</p> <p>イ 次の改修に向けての準備を進める</p> <p>ウ 探求活動を行うためのベースとなる図書館の充実や、より一層アクティブラーニングや電子黒板の有効活用を進めるための黒板のホワイトボード化など教育環境整備に努める。</p>
---	---	---	--	--	--